

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第18号

平成29年10月 3日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

3年生、高校説明会を実施

コンパス 心の羅針盤を持って志望校を選ぶ

9月21日（木）、3年生を対象に高校説明会を実施し、保護者の方にも参加していただきました。説明に来ていただいた高校は、次の12校です。

須賀川桐陽高校	長沼高校	安積高校	須賀川高校
安積黎明高校	帝京安積高校	清陵情報高校	日大東北高校
岩瀬農業高校	郡山東高校	尚志高校	光南高校

生徒たちは、この中から選択して4校の説明を聞きました。この時期に志望校を選択しているのは、とても望ましいことだと思います。各高校がこの時期にならないと入試説明ができないから、この時期に高校説明会を実施しているのであって、受験者側が志望校の検討を始める時期としては、決して早いとは言えないからです。（本紙第7号に掲載した【3年生の進路希望実現に向けての1年間の見通し】を再度ご覧いただければ、うれしいです。）

さて、10月30日（月）から始まる三者相談では、3年生はいよいよ受験する学校を決定するようになります。志望校の決定に当たって、私が願っているのは次の2点です。

① 高校は通過点。その先にある「志」を大切にしよう

ここで言う「志」とは、将来どのように身を立てるかということです。①どのような職業に就くか、②その職業でどのような生き方がしたいのかをお子さんと話し合い、お子さんが「志」をはぐくんでいく過程に関わることが大切です。また、それをもとに、③なぜ、この学校を志願するのかを明確に伝えられるようにさせましょう。（高校体験入学や高校説明会が、この③に生きてきます。）

「志」とは「心の羅針盤」、進むべき方向を示すものです。高校以降は、「志」をしっかりと持っている人が着実に能力を伸ばしていきます。その分岐点は、高校1年生の過ごし方だと言われます。



② 「すべりどめ」という発想は持たない

「すべりどめ」を口にするのは危険です。とりあえず入学できるならこの学校でもいいという考えに陥りやすいからです。そこには①で述べた①も②も③もありません。

「自分は『すべりどめ』に行くことになった。」こんな高校生活のスタートを迎えさせたくはありません。「友達が行くのは、自分の『すべりどめ』の学校だ。」そんな人間関係を続けさせたくはありません。心の中に闇を抱えるようなものです。周りの大人が

学校の優劣を口にするのも、それと同様か、それ以上の危険が潜んでいます。

合格可能性を検討した結果、志望校を変更する場合も併願受験する学校を決める場合も、第2希望、第3希望の学校、つまり、行きたいと思う学校の中から、お子さん自身が最終決定できるようサポートしてあげてほしいと願っています。



オーストラリアでの学びと子どもたちの未来



9月16日(土)に須賀川市役所内「みんなのスクエア」にて、須賀川市青少年人材育成海外派遣事業オーストラリア研修視察報告会が行われました。この事業は、外国の社会・文化・自然等に触れ、体験的な活動を通して国際理解を深め、国際感覚を身につけた人材の育成を目的としています。この報告会では、8月2日から8日にかけて行われたオーストラリアでの様々な研修で学んだことや思い出などについて、参加した子どもたちが全員で協力して発表しました。

須賀川二中からは須田日菜子さん(2年)と岡部真依さん(1年)が参加し、柳沼直三教育長をはじめとする教育委員会の方々や、発表を聞きに集まった一般の方々の前で堂々とした発表を見せてくれました。

須田さんはホームステイ中にフリーマーケットや地域の歴史を残すメモリアルホールに連れて行ってもらったことと、生活を共にすることを通して、観光ではわからない「現地の生活」を体験できたことへの感動とホストファミリーとの思い出をユーモアを交えながら述べていました。

岡部さんは英語に不安があり、始めはなかなか会話を続けることができませんでしたが、楽しい時間を過ごす中で自然と言葉が出てきたとうれしそうに話していました。また、教会でお祈りをする機会があり、神聖な雰囲気を感じながら文化の違いを学ぶことができたそうです。



子どもたちの報告からは今回の研修を通して、言語、文化についてだけでなく、言葉が通じなくても伝えようとする気持ちが大切であるということも学んできたことが伝わってきました。これからますます国際化が進む社会の中で、今回学んだことはおおいに役立つことでしょう。このような研修を企画して下さった教育委員会の方々に感謝の意を表するとともに、これから活躍してくれるであろう子どもたちの明るい未来を願いながら、これからの成長を見守っていききたいものです。(この記事は、講師 佐浦志直が担当しました。)

小中交流事業で、本校体育教員が小学生の陸上指導

9月21日(木)、須賀川二中校区小中交流事業を実施しました。この事業は、10月3日(火)のいわせ地区小学校陸上交流大会に向けた小学生の練習を支援するもので、本校の鈴木香奈教諭、橋本和雄教諭の2名が、鏡石鳥見山陸上競技場で須賀川二小・阿武隈小・柏城小の児童に専門的な立場から指導を行いました。

リレー競技におけるバトンパスの仕方について、リズムを合わせること、オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの特徴を理解すること、勢いを伝えることなどをポイントに、3校の児童は、新鮮な気持ちで練習に取り組みました。

小学生は、中学校の先生の指導を受け、褒められたことをたいへん好意的に受け止めており、鈴木・橋本の両名には、小学生の可能性に大きな信頼を寄せる機会となりました。



この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。